

平成28年度 山形五小の校内研究

研究主題

**挑み、楽しみ、つながいながら、
自ら学び続ける子どもの育成**
～学び合いを位置づけた、体育科と各教科・領域の授業づくりを通して～

主題設定の理由

本校は、平成10年度から体育科を窓口にして校内研究を行い、平成25年度からは子どもの主体的な学びや学び合う力を育むことを重点にして実践を重ねてきた。昨年度までの実践から、子どもたちは体育科の授業の中で課題を自分ごととしてもち、主体的に学習に向かうことができるようになってきている。また、課題を解決するために必要感をもって友だちと話し合ったり、練習に取り組んだりすることができるようになってきた。少しずつではあるが、わたしたちが目指す子どもの姿に育ってきているのを実感できる。これらの子どもの育ちは、意欲的に学びに向かいやすく、自然に友だちとのかかわりが生まれやすい体育科の特性を生かして研究を積み重ねてきた成果であると考ええる。

これらの成果をつなげ、これまで体育科の研究を深めることを通して見られる子どもの育ちをさらに確かなものにするために、体育科の授業づくりで得られた成果を他教科・領域の授業づくりに生かし、より多くの学習場面や教育活動の中で目指す子どもの姿へと育てていきたい。そうすることで、本校の子どもたちにさらに付けていきたい力である「相手の気持ちを察する力」「考えや思いをつなげる力」「それぞれの違いをあたたく受けとめる力」「自ら課題をもち、主体的に解決していこうとする態度」なども、より広い授業実践を通して学校教育活動全体で育てていくことができる考える。

そこで、今年度は校内研究を学校経営の柱に位置付け、教育活動全体を通して「あたたかいかわり」「質の高い学び合い」「自己肯定感を高める」ことの3つを重点にして子どもを育てていきたいという願いをもった。さらに、これまで体育科の研究で積み重ねてきた成果と課題をふまえて、今年度の研究主題と副主題を「挑み、楽しみ、つながりながら、自ら学び続ける子どもの育成～学び合いを位置づけた体育科と各教科・領域の授業づくりを通して～」と設定した。質の高い学び合いを位置づけた体育科と各教科・領域の授業づくりを模索しながら、本校の子どもたちを自ら学び続ける子どもに育てていきたいと考える。

研究主題について

- (1) 「挑み」とは
課題を自分ごととしてもち、主体的に解決しようとする子どもの姿。
- (2) 「楽しみ」とは
学びのサイクルの中で、自分自身や仲間が高まることを楽しむ姿。
- (3) 「つながる」とは
教材や、仲間や、地域と主体的にかかわり、心をつなげながら学ぶ姿。

(4) 「自ら学び続ける」とは

- ・ 学びを通して自分のよさを実感し、新たな課題を見つけよりよい自分の姿を求めて探究を続ける姿。
- ・ 知識や技能だけではなく、「学ぶ力（資質・能力）」を身に付け、学び続ける姿。（6教振の探究的な学習で目指す姿）

研究の内容と方法

体育科の実践を通して明らかになったことを各教科・領域の授業づくりに生かして授業づくりを行い、体育科と各教科・領域の授業で「学び合いを位置づけた、子どもの学びのサイクル」を成立させる手立てを模索する。

→ イメージ図